

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4570101669		
法人名	社会福祉法人凌雲堂		
事業所名	認知症高齢者グループホーム悠悠		
所在地	宮崎県宮崎市跡江2366番地 (電話) 0985-48-3261		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年10月16日	評価確定日	平成21年11月27日

【情報提供票より】（平成21年9月8日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成14年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人， 非常勤1人， 常勤換算7.5人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての 1 階部分		

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	35,650 円	その他の経費（月額）	実費 円
敷 金	有（ 円）	（無）	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） （無）	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	480 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要（平成21年9月8日現在）

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1	要介護2	1
要介護3	5	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	宮崎若久病院、記念病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

まだ田畑の残る市郊外の母体法人が有する施設の一角に、ホームは建てられている。法人の理念を基に、ホーム独自の理念を全職員で作りあげ実践に当たっている。管理者は、人材育成に積極的で法人内・外の研修に職員を参加させ、レベルアップを図るとともに、職員も日常的に学ぶ姿勢がある。また、他のホームへ利用者とともに相互訪問をし、互いに学びあいサービスの向上に努めている。管理者、職員の日常的な取り組みの姿勢が、事業所の多機能を生かしたさまざまなサービスへとつながっている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価の意義や目的は理解されているが、評価で見いだされた課題に対し改善計画シートを活用した改善には至っていない。運営推進会議の中で、災害訓練に地域住民の参加を要望として出しているが、地域性もあり実行には至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価の作成に当たっては、確認・反省の機会ととらえている。また、外部評価結果については、改善に取り組みサービスの向上を図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	運営推進会議は2か月に1回開かれている。近隣地区の自治会長が交互に出席し、介護相談員、地区代表、多数の家族も参加している。内容もホームの行事予定、運営推進会議のあり方、介護について等々、多岐にわたるとともに、外部評価に対する結果報告やその改善の取り組みなど幅広い協議が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	家族の参加が多い運営推進会議時やホームの行事、来訪の折に意見や苦情を引き出す姿勢を示しているが、現在ホームに対する意見や苦情は出ていない。家族の細かな要望に対しては、直ちに実行し家族への報告も密に行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域の色々な行事や公民館で開かれる健康教室に参加したり、地域文化祭に利用者の作品を出展する等、交流を深めている。また、散歩や買い物などに出たときには気軽にあいさつををかわし合い、地域の中に溶け込んでいる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、ホーム独自の理念を全職員で作りにあげている。理念の中に「地域の中で笑顔の絶えない暮らしを」とうたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、日常の暮らしの中で理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のさまざまな行事や、公民館で開かれる健康教室に参加、また、地域の文化祭に利用者の作品を出展する等、交流を深めている。散歩や買い物に出かけたときには気軽にあいさつをかわし合い、地域の中に溶け込んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組んでいる。外部評価に対しては反省の機会ととらえ、改めて評価の意義や一連の過程を通じ、改善に向けた取り組みがなされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開かれ、多方面からの委員や多数の家族が参加している。会議では、評価の取組状況やホームの行事などが報告されている。また、意見交換では出された意見に対して活発な討議が行われており、それをサービス向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は法人が一括して行っており、ホームは法人を通じての連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、日ごろの暮らしぶりや健康状態等を報告している。来訪の少ない家族には、電話や便りを出すなど、随時報告をしている。金銭出納帳も確認の上、サインや印鑑をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やホームの行事、来訪の折に意見や苦情を引き出す姿勢を示しているが、現在ホームに対する意見や苦情は出ていない。家族の細かな要望に対しては直ちに実行し、家族への報告も密に行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	時折、法人内の職員異動はあるが、日ごろの交流により利用者の戸惑いは見られず、安心した支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成に積極的で、法人内・外の研修に職員を参加させ、レベルアップを図っている。また、職員も日常的に学ぶ姿勢がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ利用者とともに相互訪問し、互いに学びあいサービス向上に努めている。また、グループホーム連絡協議会の勉強会に参加し、よりよいケアの実践に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族がホームの見学に来訪し、職員の案内や説明に納得した上で入居している。現在は、同法人の他事業所利用からの入居が主である。	○	現在は同法人内からの利用者が主であるが、他事業所や自宅から入居する方に対しても、利用者及び家族が見学や入居所体験をしたり、ホーム職員が自宅を訪問する等、なじみの関係になり、安心して利用開始できる体制を作っておいてほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームとしての1日の生活の流れはあるが、利用者とともに過ごす時間を大切にし、ともに笑い気持ちに寄り添いながらの支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉ではなかなか伝えることのできない気持ちにしっかり寄り添い、じっくりと話を聞くことから始め、表情や動きで思いや意向をとらえる努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め本人、家族、担当職員の意見を大切にしたい意見交換を基に、利用者本位の介護計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3 か月ごとに見直しを行っている。また、利用者の状況や小さな変化も見逃すことなく、本人、家族や職員全員で見直し、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、墓参り、留守中の家の見回りのための帰宅支援など、利用者の要望に沿った柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来の掛かりつけ医の受診となっている。受診は家族の同行を基本としているが、不可能な場合は職員が代行しており、主治医との連絡や説明等も密に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についての基本方針はあるが、具体的な指針は定まっておらず本人、家族の意向に沿うような話し合いには至っていない。	○	ホームとして対応しうるケアについて、基本方針を基に、本人や家族の意向を踏まえた話し合いの上での意志確認書や同意書が活用されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の部屋に入るときは必ずノックをするなど、基本的に守るべきことから始め、利用者に対する言葉かけにも尊厳を重んじる姿があった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のリズムや健康状態を見極め、柔軟に対応している。職員は利用者のペースに合わせさりげない支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じ、調理や盛りつけ、後片づけを職員と一緒にしている。職員も利用者と一緒にテーブルを囲み、同じ食事をゆっくりと楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を基本とし、午後からの入浴となっている。天然の温泉と広い浴槽でゆったりとくつろげる空間となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の暮らしが楽しみや張りのあるものになるように、本人らしさが発揮できる機会を作り、見守りながらの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩を中心に、利用者の気分や希望に応じて、ドライブや買物にも出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、屋外に出ようとする利用者には見守りや声掛けをし、時には一緒に付き添い散歩に出るなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施している。同敷地内の法人施設の訓練にも利用者とともに参加している。マニュアルや緊急連絡体制も作られており、繰り返しの訓練により職員も適切に対応できる力が備わっている。	○	マニュアルや緊急連絡体制も作られており訓練等も出来ているが、地域住民の協力を得ての防災訓練の実施を望みたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量の摂取状況をチェック表に記録し、全職員が情報を共有している。偏食の多い利用者に対してさまざまな工夫をし、偏りのない食事の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広々としており開放感がある。大きな開口部からは畑や周りの景色を眺めることができ、また、利用者のくつろぎの場所からは台所で食事を作る様子もうかがえ、活力を引き出しやすい環境となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具類や家族の写真、使い慣れたなじみの物が持ち込まれ、安らぎのある生活が送れるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。